

筑紫野市の山間にある古民家モデル住宅「風のくら」が
エクステリアを一新。アフタヌーンティー
ガーデニングを楽しむ暮らしを提案します。

ガーデニングに土間スペース 古民家ライフを楽しむ提案。



150年ほど職人が丹精込めて建てた木造家屋は建物の形も構造も昔のまま。現代的なライフスタイルに合わせてリノベーションされた「風のくら」。エクステリアのリノベーションにより、家を囲む生け垣もスペイン漆喰の壁に変更。花壇にはバラをはじめ、色とりどりの草花が植えられている。シンボルツリーとして人気の高いヤマボウシ、オリーブ、ジュンペリーもあるので、庭づくりの実物見本として現地でご確認してほしい



「風のくら」では趣の異なる5つの庭づくりの例を見ることが出来る。最初に目に入るのは、アプローチの坂道に造成された段々畑状の花壇。50年ほど前からある椿の足元には、青いバラ「ブルーグラビティ」をはじめ、色とりどりの宿根草が広がる。西側には古い枕木をフェンスに見立ててポーターガーデンをつくり、四季咲きのバラを中心にクリスマスローズや西洋フクサイを植え、季節ごとに違う風景を楽しむ工夫を凝らした。正面にはバラソルとガーデンセットを置き、つるバラを植えた。1年も経てばフェンス面に広がるバラのカーテンを楽しめるようになる。山沿いには寄植えのハンギングバスケットを飾った天然石のタイルデッキや、宝満石を積み上げてつくったポーターガーデンもあり、庭づくりのイメージが広がる。

季節ごとに表情を変える バラを中心とした庭づくり

画きながらのアクセントとなり、庭で育てた草花を家に飾る。そんな、四季や自然を楽しむ暮らしを建築家の視点から提案しています。「ハクスランド社」代表 三上信比古さんは語る。



育てる、眺める、楽しむ
庭があればおうち時間が充実
明治初期に建てられた日本家屋をリノベーションして誕生したモデル住宅「風のくら」。リノベーションから10年が経ち、今回はエクステリアを一新。古い垣根に囲まれた常緑樹と大小の庭石からなる純和風の庭から、ガーデニングやアフタヌーンティーを楽しめる空間へと生まれ変わった。
「外出レジャーが難しい時期でも、自宅であくどア気分を味わえたらリフレッシュできる。室内に人を招き入れるのははばかられても、風が吹き抜ける庭でデイタイムなら安心。庭がもつと楽しめる空間になれば、おうち時間が充実しますよね。何よりも、住まいというのは建物と庭の調和で成り立っているもの。窓越しに見える景色が季節ごとにかけかえる絵

